

駒ヶ根市文化財

名称	赤須城跡
種別	史跡
指定	市・史跡(昭和 52. 4.28)
所在地	赤穂下平
説明	<p>赤須城は JR 駒ヶ根駅より東方 2km、天竜川の右岸段丘上にある。城郭の南は宮沢川の浸食による自然の堀、東側は急峻な段丘崖という要害の地で、自然の地形を巧みに利用した連郭式(れんかくしき)の平山城(ひらやまじろ)である。</p> <p>城廓の規模は東西 900m、南北最大幅 400m を測り、東に行くに従い幅は狭くなっている。規模は市内で最も大きなものである。</p> <p>段丘突端に、「外城」、続いて西へ「本郭」「二の郭」「出郭」「添郭」があり、その間には空堀で区画される。現存する堀は 7 本であるが、一番西の 7 の堀の西側には、団地造成の折の確認調査において空堀が検出され、8 本の堀があったことが確認された。</p> <p>6 の堀から 8 の堀の一带は、「伴城平(ばんじょうたいら)」と呼ばれている。確認調査では堀以外に城に関連するものは発見されていない。</p> <p>本郭と添郭には土塁が遺されている。4 の堀から西側一带は「室屋(むろや)」と呼ばれ屋敷跡とされている。ほ場整備事業などに伴う発掘調査では、中央を東西に直線に走る浅い溝が確認され、その両側からは、中世の住居址、小竪穴、柱穴址が確認されている。平安時代末の住居址も確認されているが、直接当城館の歴史と結び付くかははっきりしない。一带から発見された陶器類は、南北朝時代のものも見られるが、主体は室町時代のものである。</p> <p>また、「外城」と「本郭」との間 1 の堀は、現在市道として利用されており、市道拡幅のための調査では、本郭が東の堀の一部を埋めて拡張して造られていることが分かっている。</p> <p>赤須氏の出自は松川町上片桐(一部中川村を含む)の片桐氏の流れを組むもので、在名により「赤須氏」を名乗ったことはほぼ間違いないところであるが、その時代については、鎌倉時代とか南北朝時代とか史書によってまちまちでありはっきりとはしていない。</p> <p>先に述べた広大な縄張りを持つ赤須城の成立がいつ始まるのか、徐々に拡大したものと思われるがはっきりしない。出土陶器などからすると室町時代初期に求めることができる。室町から戦国時代にかけて隆盛を極めたが、天正 10 年(1582)の織田軍の伊那谷進攻により、武田配下の諸城とともに滅びた。</p> <p>本郭を中心に城の一部が市の史跡として指定されている。</p>

駒ヶ根市文化財



赤須城跡(東より)



赤須城の本郭



赤須城二の郭の西 3の堀